第128号
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE ALUMNI ASSOCIATION NEWS
東京農業大学 校友会ニュース

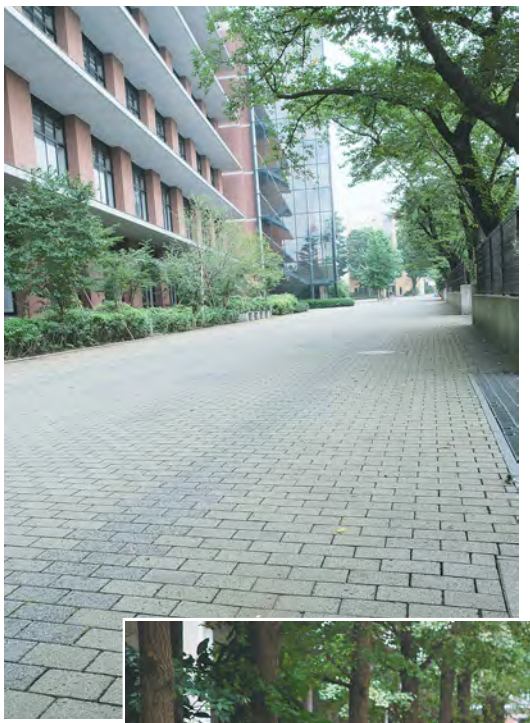
［発行］
東京農業大学校友会
〒156-0054
東京都世田谷区桜丘3丁目9-31
電話 03-3429-1983　FAX03-3427-2271
［編集発行人］
校友会会長　萬歳　章
東京農業大学校友会ホームページ
https://www.nodai-koyukai.jp

学生の帰り待つ コロナ禍の母校

母校・東京農業大学のキャンパスは4月10日から入構禁止になり、かつてない閑散としした空間になってしまった。学外からキャンパス内を見回すと、学生はもちろん人っ子一人見当たらない。普段なら部活で強靭（きょうじん）な肉体と大きな声が飛び交うグラウンドは静まりかえり、校友が青春時代を過ごしてきたキャンパスは様変わりしていた。後学期になって対面授業が始まっても、学生同士の語らいやキャンパスライフは以前のようには戻ってきていない。

少しずつ活気が戻る

新型コロナウイルス感染症が広がり、4月7日に7都府県で緊急事態宣言が発令されたのに伴い、3キャンパスが入構禁止となった。授業は5月11日からオンラインによる遠隔授業が取り入れられた。学生は登校せずにパソコンに向かって授業を受ける。同宣言解除後は院生や学部4年生の入構が一部認められるようになるなど、段階的に緩和の方向が示されたが、それでもキャンパスへの入構は大きく制限され、前学期中は通常の対面授業は行われなかった。



世田谷キャンパスの前学期は人影も見えなかった㊤が後学期になって徐々に学生が戻ってきた㊨

ホームカミングデーや経営者フォーラム、収穫祭などイベントはほとんど中止になった。そのため、東京農大OBや地域の人々と現役学生の交流も難しくなり、もどかしさを感じる校友も多かった。

9月23日から後学期授業が始まった。実験・実習・演習科目の一部、1年生の講義科目の一部などで対面授業が再開した。とはいえ一般の講義科目は原則遠隔授業。いつもより学生数はかなり少ない。その上ウイルス感染対策の徹底で、マスクの着用やソーシャルディスタンスの確保、会話の自粛など、学友とのコミュニケーションをとることはなかなかできない。

感染拡大防止に向けた行動は「生きる」を支える行動となります。――正門前の立て看板で、大学は入構制限の意義を訴えていた

後学期には新型コロナウイルス対策を取りながら屋外での実習も始まった

学生は、新型コロナ禍の収束後に帰ってくる、明るいキャンパスライフを期待してもう少し我慢だ。苦慮している後輩学生に対し、修学支援募金などを活用して応援の輪を広げている校友が増えてきている。

東京農大校友会のホームページは下のQRコードから閲覧できます。

正代関初V 大関に

大相撲秋場所で初優勝した、わが東京農業大学校友の正代関は、9月30日に大関に昇進した。

（詳細は12面に掲載）

oneコイン募金に協力を

協力者ご芳名 10面に掲載

陸上競技部男子長距離ブロックの選手強化への強力な後押しとなるよう、「箱根駅伝への道oneコイン募金」へのご協力をお願いいたします。ゆうちょ銀行「払込取扱票」（校友会ニュース同封）でお振り込みいただきますようお願いします。

令和2年4月から9月までに校友会本部にお届けいただきました協力者のご芳名を10面に掲載しています。

青年部会の設立を支援

校友会通常総会は書面議決

令和2年度東京農業大学校友会通常総会は新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、総会議案書を全国の全代議員に送付し、書面での意思表示により議決が行われた。2年度は、青年部の設立を支援する方針などが定まった。

萬歳章会長

三好吉清顧問

総会の議決日は8月20日。グリーンアカデミーホール会議室で令和元年度事業報告・決算報告、令和2年度事業計画・収支予算などが承認された（2面に決算・予算）。

議長に群馬県支部長の反町功夫氏（昭40畜）を選出、反町議長が浅野康之氏（昭63林）、小畑幹夫氏（昭60造）を議事録署名人に指名した。

代議員194人から書面による意思表示があり、上程された全3議案が異議なく承認された。

第2号議案「令和2年度事業計画並びに収支予算の承認に関する件」では若い世代の参画を進めるため、青年部会の設立に対する支援を盛り込んだ。また、新型コロナウイルスの感染拡大が続いていることから、会員の安全・安心を第一に活動していくとした。

第3号議案「東京農業大学校友会顧問推挙の承認に関する件」は、校友会前会長の三好吉清氏の顧問への推挙が承認された。

貢献賞に相馬教授

ベストティーチャー・レクチャー賞も決まる

2020年度の東京農大貢献賞は北方圏農学科の相馬幸作教授が受賞した＝7面に研究内容を掲載。ベストティーチャー賞には生物資源開発学科の松林尚志教授ら6人、ベストレクチャー賞は教職課程の武田晃治教授が受賞した。

表彰式は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により今年度は中止となった。

2020年度「東京農大貢献賞」受賞者

生物産業学部	北方圏農学科	相馬　幸作　教授

2020年度「東京農大ベストティチャー賞」受賞者

農学部	生物資源開発学科	松林　尚志　教授
応用生物科学部	醸造科学科	鈴木　敏弘　助教
生命科学部	バイオサイエンス学科	尾畑　やよい　教授
地域環境科学部	地域創成科学科	浅井　俊光　准教授
国際食料情報学部	国際食農科学科	望月　洋孝　助教
生物産業学部	北方圏農学科	下井　岳　准教授

2020年度「東京農大ベストレクチャー賞」受賞者

教職課程	武田　晃治　教授

〈東京農大貢献賞〉

創立125周年の平成29年に始まり4年目。社会貢献や学術的な功績で東京農業大学の名声を高めた教員を表彰する。

〈ベストティーチャー賞〉

教育の質的向上に貢献した教員を表彰する。授業の内容、教授方法に優れ、学生による授業評価アンケートの結果で高得点を得た教員。今年で3年目。

〈ベストレクチャー賞〉

授業の進め方や評価方法に特徴的な取り組みがあり、学部学科などの特徴化に貢献した教員を表彰する。同じく学生によるアンケートが使用される。今年で2年目。

厚木キャンパスで取れたジャガイモ市立病院に

東京農大厚木キャンパスの畑で収穫されたジャガイモが7月13日、厚木市立病院に贈呈された。

贈呈式は病院内で行われ、髙野克己学長が医療従事者の方々への感謝の気持ちと共に、ジャガイモを同病院の長谷川節院長に手渡した。

長谷川院長は「新型コロナウイルスの陽性患者を受け入れ、緊張感が続く中、このようなお力添えは心強い」とお礼の言葉を述べた。

今回贈呈されたジャガイモは、本来なら、デザイン農学科1年生実習に使用される予定だった。ジャガイモを育てた同学科の御手洗洋蔵助教は「新入生と芋掘りができなかったことは残念だが、収穫したジャガイモが食品ロスにならなかったことに加え、地域の役に立ててうれしい。また早く学生たちと活動できる日が来ることが待ち遠しい」と語った。

長谷川院長にジャガイモを手渡す髙野学長㊨

横井先生像お引っ越し

サイエンスポートに

世田谷キャンパス内「農大の森」に設置されていた、本学の建学の理念を築いた初代学長の横井時敬先生の胸像が6月17日、農大サイエンスポート1階エントランスホールに移設された。

横井先生は教育理念を「実学主義」におき、「稲のことは稲に聞け、農業のことは農民に聞け」は、今も農大における教育研究の精神的支柱となっている。また、「人物を畑に還す」と、農業後継者・地域社会の担い手の養成を目指し、さらに、「農学栄えて農業亡ぶ」という警世の句を残して教育研究は学問のための学問を排し、産業界から遊離しない実学研究でなければならないとした。

農大サイエンスポートに移設された横井先生の胸像。台座には「稲のことは稲に聞け、農業のことは農民に聞け」と刻まれている

校友会通常総会で承認された決算・予算

令和元年度決算		
一般会計	収入総額	101,468,997円
	支出総額	89,864,474円
	差引残高	11,604,523円
	翌年度繰越金	11,604,523円
予納金特別会計	収入総額	375,600,000円
	支出総額	71,775,000円
	翌年度繰越金	303,825,000円
基本金特別会計	収入総額	235,113,760円
	支出総額	0円
	翌年度繰越金	235,113,760円
「箱根駅伝への道」特別会計	収入総額	8,288,766円
	支出総額	4,536,086円
	翌年度繰越金	3,752,680円
令和２年度予算		
一般会計	収入総額	101,635,023円
	支出総額	101,635,023円
	翌年度繰越金	0円
予納金特別会計	収入総額	380,075,000円
	支出総額	71,200,000円
	翌年度繰越金	308,875,000円
基本金特別会計	収入総額	235,133,760円
	支出総額	0円
	翌年度繰越金	235,133,760円
「箱根駅伝への道」特別会計	収入総額	10,252,780円
	支出総額	6,500,100円
	翌年度繰越金	3,752,680円

東京農業大学のホームページは、右のＱＲコードから閲覧できます。

学生に寄り添い就活支援

令和3年3月卒業・修了予定者の就職・採用活動は新型コロナウイルスの影響を受け、企業は緊急事態宣言下での採用活動を休止せざるを得ない状況となりました。

インターンシップによる早期選考を進めた企業は、コロナ禍以前に内定を出したところもありましたが、多くはオンラインを導入して選考を継続した企業と、情報環境の整備が間に合わず完全に休止した企業に二分化されました。

この時期、学内では学生の入構制限があったため、キャリアセンターの支援は4月中旬からオンラインを主軸に進路相談、エントリーシート添削、面接練習など9月末までに延べ1905件に対応しました。

電話やメールでの相談も多く寄せられました。学生相談を通じて感じるのは、コロナ禍では、私たちの予想以上に孤独に就職活動している学生が多いということです。キャリアセンターは、職員が学生に寄り添い、納得できる就職活動ができるよう支援を続けています。5月以降は、農大生を積極的に採用している企業によるオンライン企業セミナーを4回、延べ54社で開催し、ここから内定につながった学生も出ています。

今期の就職内定率は、例年より1カ月程度遅れています。本学は、公務員を志望する学生も多く、公務員・教員採用試験は日程を延期して実施となったため、進路決定が遅くなっています。そのため、内定取得の割合が例年より若干低めで推移していますが、これから高まると予想しています。

校友の皆さまの、さらなる就職支援・ご協力を引き続きお願い致します。【キャリアセンター】

留学生をサポート

誰もが安心して学べるように

本学には現在36カ国・地域212人の留学生が在籍しています。新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大した2～3月は春季休業期間で、母国で来日準備を進めていた新入留学生や一時帰国していた留学生44人が、日本の水際対策強化措置で来日できなくなりました。

グローバル連携センターは、遠隔授業という慣れない状況下で留学生が不安を抱え孤立してしまうことがないよう、資料英訳、政府や大学から発表される情報の提供と解説、学生同士のコミュニケーションの場の提供、オンライン日本語講座、個別相談、遠隔授業履修サポートなど、数々の支援を行っています。

また、例年多くの本学学生にグローバルな活動の機会を提供している「世界学生サミット」「短期派遣プログラム」「長期交換留学」などの国際プログラムが、今年度は中止となりました。このような状況でも、学生がコロナ禍収束後に再開するプログラムに向けて準備する機会として、オンライン英会話、オンライン語学留学、e－サマーコースなどの新たなプログラムを提供しています。【グローバル連携センター】

農大が公式アカウント

SNSで情報発信

東京農大公式アカウント（Instagram、Twitter、Facebook、YouTube、Line、blogなど）により、大学に関する情報や、本学関係者の取り組みなどを主に発信しています。

毎日更新しているのでフォロアー、閲覧数も増加しています。今後は、「東京農大トレンド」として、東京農大関連のＳＮＳやハッシュタグを集めたサイトを公開予定です。複数者からの投稿ですので、視点や内容が異なり、本学の取り組みをリアルに、より身近に感じることができるようになります。ぜひ、ご確認ください。https://www.nodai.ac.jp/　【企画広報室】

コロナ禍に学生守る

大学が多様な対応策

前学期は全て遠隔授業に
後学期 一部対面戻る

前学期は全ての授業が遠隔授業となり、キャンパスへの入構も大きく制限されました。意欲に燃えた学生が教員の「知の成果」を受け取り発展させる講義、実験・実習・演習だけではなく、教職員、先輩や後輩、同級生と語り合い、さまざまな活動を展開するキャンパスライフ、さらには地域や現場の方々との交流から得られる学びも大きいものがあるだけに、心苦しい状況でした。

後学期授業（9月23日開始）は①講義科目は原則、遠隔授業（主にオンデマンド型）で実施し、学内の感染防止策を徹底した上で②実験・実習・演習などの一部科目を対面授業で再開しています（遠隔授業との併用あり）。

世田谷キャンパス1号館前

世田谷キャンパスでようやく見られるようになった実験をする学生

構内では、マスクの原則着用、手指消毒、教室での座席指定、会話を避けた飲食などさまざまな行動制限を行っています。また、実験室、研究室、付属施設などそれぞれの環境に応じた行動制限もあることから、まだ平常のキャンパスライフには程遠いものです。しかし状況をしっかりと見定めながら、健康を守り、より質の高い学びの実現を願っています。なお、キャンパスに入構し対面授業を受講できない事情のある学生は、不利益がないような措置をとります。

【企画広報室】

感染防止対策万全に
指針定め あの手この手

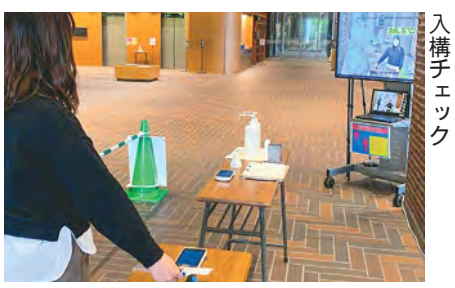
本学は、新型コロナウイルス感染症発生以来、入構や教育研究活動に係る「行動指針」を定め、感染防止対策を強化しつつも、段階的に制限を緩和・拡大しながら、教育研究活動を展開しています。

後学期が始まり、授業は対面授業と遠隔授業を併用するので、キャンパス入構の際には、設置したサーモグラフィーなどで検温、マスクの着用、手指の消毒など感染防止に関する基本的な対策を徹底しています。教室、研究室や食堂など学生たちが集まる場所では、座席数の削減や制限を行うことで身体的距離を確保、建物の自動換気システムによる換気に加え、授業終了後など一定時間ごとに窓を開けての換気を実施しています。

また、食事中の会話自粛の徹底や、飛沫（ひまつ）防止パネルやシートを食堂や窓口に設置するなど、「新しい生活様式」に基づき、それぞれの場所に応じた各種の措置を講じ感染防止に努めています。

さらに、ICチップ付きの学生証を利用したキャンパスへの入退記録、授業受講時の座席指定や各研究室への入退記録などを実施し、感染者が発生した際に、濃厚接触者を迅速に特定できるような対策にも取り組んでいます。

【大学総務課】


キャンパス入構時の検温・入構チェック

教室内の座席数を削減

修学支援に 奨学金支給
学びあきらめないで

オンライン授業のための通信環境整備の負担やアルバイト収入が途絶えて経済的に困窮している学生への救済措置として、本学は学部学生全員に一律5万円の緊急修学支援奨学金を支給しました。

日本経済の停滞は長期化することが見込まれています。学業の継続が難しくなる人もいるかもしれません。この状況に対して、国による学生支援緊急給付金給付事業―「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』、各都道府県市町村独自の緊急奨学金による支援などが広がっています。

本学もそうした人のために、今回の緊急修学支援奨学金とは別に「修学支援募金」（新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生支援募金 https://bokin.nodai.ac.jp/）を設けました。誰一人として、コロナ禍が原因で学びをあきらめてほしくない。「生きる」を支える学びを全うしてほしい。今後もさまざまな形での支援を困窮している学生に向けていきます。

【企画広報室】

東京農業大学「修学支援募金」

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う 学生支援募金へのご協力のお願い

東京農業大学　学長　髙野克己

東京農業大学では、教育研究の理念である「実学主義」のもと、「生きる」を支えるための教育・研究活動を推進しています。

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症が拡大する中、本学は、「学生と教職員の健康と生命を守る」「教育・研究で使用する生き物を大切にする」「学生と教職員への教育・研究の場を提供する」「社会の一員としての使命を果たす」を優先事項として対策を進めてまいりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響は、家計支持者の収入や学生のアルバイト収入の減少など経済面にも及び、学生の修学継続に対する影響が危惧される状況となっております。

このような状況の中で、本学としましては、学生を経済的な面からも支えるため、学部生全員を対象に一律5万円の緊急修学支援奨学金の給付として、総額約6億円を超える財政支出をしておりますが、さらなる支援の拡大と学生が継続して教育・研究活動に取り組めるように、東京農業大学「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生支援募金」を設けました。

なにとぞ校友の皆さまのご支援をお願い申し上げます。

募金の内容

1．寄付開始日　令和2年6月
2．募集金額　1口　10,000円
3．寄付対象者　個人・企業・団体
4．寄付方法　①銀行振り込み
　②ホームページからクレジットカード
※税制上の優遇措置の対象になります。

詳細は同封のリーフレット、ホームページでご確認ください。
<お問い合わせ先>
東京農業大学
大学総務部大学総務課
TEL:03-5477-2908
Email:bokin@nodai.ac.jp
URL:https://bokin.nodai.ac.jp

教育懇談会も オンラインで
保護者ら 1500人参加

オンライン教育懇談会第1部全体懇談会であいさつする髙野学長

7月4日に「オンライン教育懇談会」が開催され、全国から1514人の参加がありました。例年は、世田谷、厚木、オホーツクの各キャンパスで開催していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインでの開催となりました。

「オンライン教育懇談会」は、3部構成で、第1部の「全体懇談会」は、ライブ配信により、藪野教育後援会長および髙野学長のあいさつ、大学全体に関する教育活動の報告およびキャリア活動の報告などを中心にYouTubeでのライブ配信。第2部の「学科別報告会」は、各学科による学科紹介や教員紹介などを中心としたZoomでの双方向通信。第3部の「学科別懇談会」は、学科教員や研究室教員との面談を第2部同様に双方向通信で実施しました。

遠方から参加した保護者からは「オンラインでの開催は、感染防止や、会場まで出向く時間の節約になり、参加する側の負担が少なくて済みました」などの声も聞かれ、初の試みでしたが、今後の教育懇談会のあり方の一つとして新たなる可能性を見いだすことのできた開催となりました。なお、11月には、地方懇談会に代わり2回目のオンライン教育懇談会を実施する予定です。【大学総務課】

世田谷・厚木キャンパスに新校舎

実験・実習の拠点 研究発信のハブに

厚木キャンパスの実験実習棟が令和元年9月に、世田谷キャンパスの新研究棟「NODAI Science Port（農大サイエンスポート）」が2年4月に始動。実験・実習の拠点として活躍している。それぞれ研究成果の発信施設としても位置付けられている。

厚木の実験実習棟㊤の1階には農産加工実習室㊨（令和元年撮影）

厚木 実験実習棟

厚木キャンパス実験実習棟は、農学部のコンセプト「理論と実践の一体化」をさらに充実させることを目的としている。農学系の最先端の設備を備えている。

1階には食品加工施設（乳加工実習室、肉加工実習室、農産加工実習室）がある。食品工場と同等の衛生管理ができる本格的施設だ。2、3階は生物系・化学系の実験室。電子顕微鏡など、実験器具を使用した微細な作業も室内にある多くの大型画面で拡大して見ることができる。

地上3階建てで延べ床面積は2301平方㍍。省エネなど環境に配慮した建物として各種制度の認証も受けている。

世田谷 農大サイエンスポート

農大サイエンスポートには、世田谷の4学部15学科87研究室が入っている。同キャンパスの学生のうち、研究室に所属する3年生以上の学部生と院生の4000人以上がこの研究棟で過ごす。

各研究室は大きなガラスで廊下に面しているなど、開かれた施設が強調されている。全研究室が同じ建物にあることから、専門分野を横断した研究や研究室同士の協力が期待されている。栄養生化学研究室に所属する中川晃貴さん（院化博前2）は「いくつか分かれていた研究が一つの部屋に入った。そのため実験の話などで交流できるようになった。他の研究室との交流もある」と新しい施設に満足している。

吹き抜けの階段踊り場などに共有のフリースペースも多く、学生や院生の触れ合いの場にもなる。各学生の距離感もずっと身近になった。

1階のエントランスホールに入ってすぐの階段がこの施設の象徴的存在だ。単に階段としてだけでなく、100人以上が着席可能な話し合いやプレゼンテーションの場として使うことができる。

地下1階、地上8階、東西が120㍍を超える巨大な施設だ。

新型コロナウイルス感染対策のため、この研究棟にも学生はまだ少ない。コロナ後の日常が戻ってきたとき、この施設の真価が発揮される。

「きれいで使いやすい」と評判の実験室

プレゼンテーションなどへの活用が期待される象徴的な大階段

東京23区内最大級の教育研究施設・農大サイエンスポート

階段の吹き抜け空間には交流スペース

国際農業開発学科

国際協力で現場の声 オンラインでセミナー

「国際協力に関する現場の声を聴いてみませんか？」。国際農業開発学科は7月26日、8月9、16日、9月6日の4回、オンラインセミナーを行った。国際協力に興味を持つ高校生や、東京農業大学独自の長期履修制度に関心がある学生ら、約200人が参加した。

講師は同学科の先生の他、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）や国際協力機構（JICA）で活躍する卒業生、東京農大大学院生、現役の青年海外協力隊員らが務めた。参加者からは「語学はどのように勉強したのか」「コロナ禍で国際協力はどうなるのか」などさまざまな質問が寄せられた。

志和地教授㊨は国際協力の道に進むための方法を具体的に解説した（写真＝国際熱帯農業研究所・ナイジェリアで）

専門家に必要な資質や能力説明

第1回は、志和地弘信教授が、自身が青年海外協力隊や技術専門家としてネパールで経験したことを語った後、国際協力の専門家にとっては分野・課題専門力や総合マネジメント力などの資質や能力が必要と強調。専門家を育てるための研修やインターンシップがあることを紹介した。

現役の青年海外協力隊員も参加し、東京農大大学院国際農業開発学専攻の吉浦諒子さん（アフリカ・ベナンに派遣）ら3人が海外で活動した体験を報告した。

多様な国知り視野を広げる

第2回は、五野日路子助教がゼロハンガー（飢餓ゼロ）の活動について、さまざまな国のことを知り、視野を広げ、大きな心・柔軟な発想で国際協力に取り組んでと、参加者に期待した。

その後、同大学院国際農業開発学専攻で国際協力の研究をしているカレラ・ディッサナヤークさん（スリランカ出身、日本で研究）ら4人が研究の成果を発表した。

先端技術で問題を解決

第3回のテーマは「途上国の農業問題を先端技術で解決」。

入江憲治教授は、ミャンマーでのアブラナ属野菜遺伝資源の多様性と特性解明の研究を紹介。農研機構・次世代作物開発研究センター上級研究員の宇賀優作氏（平10開）は根を改良して干ばつに強い稲の開発に取り組んでいることを報告した。

フィリピンからオンライン参加の同大学院国際農業開発学専攻の射場木萌春さんは、国際稲研究所（IRRI）での研究やザンビアでの活動を発表した。

パキスタンのUNHCRで活躍する荒木上級開発・解決官（前列右）

まずは農村の開発を進める

第4回は、UNHCR上級開発・解決官の荒木亜礼譜氏（平16院開修）がパキスタンからオンラインで参加＝写真右（前列右）。

荒木氏は開発途上国の貧困や難民の実情を報告した後、まず農業・農村開発を進めることが必要と述べ、国際協力には専門性が重要と力説した。

JICAからは菊地由起子氏（平11開）ら2人が報告した。

オンラインで学びの場を紹介

オープンキャンパスで模擬講義

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年のオープンキャンパスはオンラインで行われた。7月25、26日はオホーツクキャンパス4学科で、8月2、23日、9月22日は3キャンパスの6学部23学科および教職・学術情報課程で、各日、各学科3回催された。学科の概要説明や毎回異なる教授による模擬講義などが行われ、多くの高校生が視聴した。大学入学者選抜制度の説明会も行われた。

「希望の研究室に入るにはどうすればよいのか」「希望学科に進学するには高校でどのような科目を頑張ればよいのか」など、さまざまな質問が寄せられ、担当教職員が丁寧に答えた。

エミューの研究をしている大学院生

北海道オホーツク

エミューに注目集まる

北方圏農学科（7月26日、3回目）は、ライブ中継でエミュー牧場を紹介。網走市にはエミューが約1400羽飼育されており、肉、卵、脂肪がとれ、家畜になりうる有望な動物資源として注目されている。

食香粧化学科（9月22日、3回目）では、香りの化学研究室の野島聡教授が香り、食品、化粧品、機能の四つの学問領域を説明、それぞれを研究する香りの化学研究室、食の化学研究室、化粧の化学研究室、生物資源化学研究室があることを紹介した。

世田谷

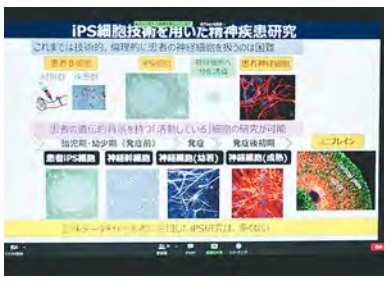
人と森林の共生を説明

人と森林の共生社会を実現することを目的としている森林総合科学科（8月23日、1回目）では、江口文陽学科長が教育研究の概要と研究領域、入学者選抜情報、卒業生の就職先などを紹介した後、「入れる大学ではなく、入りたい大学を目指してください。大学で何をやりたいか。社会に出て何をしたいかです」と強調した。

林内作業とともに野生動物の研究や測量についても学ぶ

模擬講義は、森林経営学研究室の佐藤孝吉教授が世界のさまざまな地域の事例を紹介しながら「森林と人間のサスティナブル（持続可能）な関係」の構築について解説した。

9月22日に行われたバイオサイエンス学科（同日2回目）の模擬講義は動物分子生物学研究室の中澤敬信教授が、記憶や学習、感情がどのように制御されているか、そのメカニズムはまだ未開拓の分野であるとし、分子生物学、行動薬理学、イメージング、多能性幹細胞（iPS細胞）などの手法を使った研究の一端を披露した。

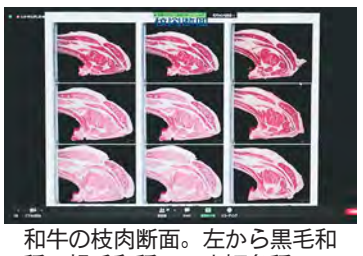


iPS細胞技術を使った研究も紹介された

厚木

牛の霜降り研究を解説

動物科学科（9月22日、1回目）の模擬講義では、動物生理学研究室の平野貴教授が、牛の霜降り形質と遺伝子について解説。霜降りの評価基準や遺伝子、そしてよりおいしい霜降り肉にするための研究などを紹介した。


和牛の枝肉断面。左から黒毛和種、褐毛和種、日本短角種

大学・学部説明会も

東京農業大学を目指そうとしている高校生や保護者向けに7月19日、オンラインによる大学の説明会が行われた。

初めに大学の歴史と現在について紹介。実学主義を教育方針とし、社会に貢献できる有為な人材を輩出し続けているとした。

社会に有為な人材を輩出

東京農大には全学で152の研究室があり、3年生から全学生が研究室に所属する。卒業論文は必修。入学する学生の多くはキャリア意識が強く、専門的な知識の習得を目的としており、就職に強いことも東京農大の大きな特徴だ。

さらに東京農大6学部（農学部、応用生物科学部、生命科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部、生物産業学部）の説明会も7月にオンラインで行われ、東京農大を目指している多くの高校生が参加した。

2021年度　一般選抜　日程

	出願期間	試験日	科目	学部	学科	試験会場	合格発表	入学手続期間
A日程	Web出願 2021年1月4日(月)～1月20日(水) 最終日はWeb入力15時まで 郵送は消印有効	2021年2月3日(水)	3科目型	農学部	農学科、動物科学科 生物資源開発学科 デザイン農学科	札幌・仙台 郡山・水戸 宇都宮・高崎 大宮・松戸 千葉・八王子 町田・横浜 新潟・金沢 松本・静岡 名古屋・大阪 広島・福岡 那覇 世田谷キャンパス 北海道オホーツクキャンパス	2021年2月13日(土) 13時	2021年2月15日(月)～2月24日(水) 郵送のみ (消印有効)
				応用生物科学部	農芸化学科、醸造科学科 食品安全健康学科 栄養科学科			
		2021年2月4日(木)		生命科学部	バイオサイエンス学科 分子生命化学科 分子微生物学科			
				地域環境科学部	森林総合科学科 生産環境工学科 造園科学科、地域創成科学科			
		2021年2月5日(金)		国際食料情報学部	国際農業開発学科 食料環境経済学科 国際バイオビジネス学科 国際食農科学科			
				生物産業学部	北方圏農学科、海洋水産学科 食香粧化学科 自然資源経営学科			

受験日自由選択制　試験は3日間。全学部全学科とも3日間のうちどの日でも受験可。

同一学科複数日受験制　同じ学科を最大3日間受験可能。

学部学科併願制　1日の受験で学部にこだわらず、複数学科の出願が可能。選抜科目の選択Ⅱは各学科が共通して選択可能としている科目を受験することが条件（科目詳細は大学案内もしくは本学ホームページ参照）。

	出願期間	試験日	科目	学部	学科	試験会場	合格発表	入学手続期間
B日程	Web出願 2021年2月5日(金)～2月18日(木) 最終日はWeb入力15時まで 郵送は消印有効	2021年2月28日(日)	3科目型	農学部	農学科、動物科学科 生物資源開発学科 デザイン農学科	仙台・大宮 松戸・千葉 横浜・名古屋 大阪・福岡 世田谷キャンパス 北海道オホーツクキャンパス	2021年3月6日(土) 13時	2021年3月8日(月)～3月12日(金) 郵送のみ (消印有効)
				応用生物科学部	農芸化学科、醸造科学科 食品安全健康学科 栄養科学科			
				生命科学部	バイオサイエンス学科 分子生命化学科 分子微生物学科			
				地域環境科学部	森林総合科学科 生産環境工学科 造園科学科、地域創成科学科			
				国際食料情報学部	国際農業開発学科 食料環境経済学科 国際バイオビジネス学科 国際食農科学科			
				生物産業学部	北方圏農学科、海洋水産学科 食香粧化学科 自然資源経営学科			

学部学科併願制　学部にこだわらず、複数学科の出願が可能。選抜科目の選択Ⅱは各学科が共通して選択可能としている科目を受験することが条件（科目詳細は大学案内もしくは本学ホームページ参照）。

2021年度　大学入学共通テスト利用選抜　日程

	学部	科目	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
前期	農学部 応用生物科学部 生命科学部 地域環境科学部 国際食料情報学部 生物産業学部	4科目型 3科目型	Web出願 2021年1月4日(月)～1月15日(金) (最終日はWeb入力15時まで 郵送は消印有効)	大学入学共通テスト 2021年1月16日(土) 1月17日(日) または 1月30日(土) 1月31日(日)	2021年2月15日(月) 13時	2021年2月15日(月)～2月24日(水) 郵送のみ(消印有効)
後期		3科目型	Web出願 2021年2月5日(金)～2月22日(月) (最終日はWeb入力15時まで 郵送は消印有効)		2021年3月6日(土) 13時	2021年3月8日(月)～3月12日(金) 郵送のみ(消印有効)

○前期日程においては、3科目型と4科目型の2方式を併用します。
○受験学科の指定科目さえ受験していれば、併願に制限はありません。全学部の異なる学科の併願、同じ学科の４科目型と３科目型を併願することも可能。また、前期と後期を併願することも可能。
○一般選抜Ａ日程およびＢ日程との併願も可能です。

2021年度　入学志願者・入学許可者に対する災害救助法適用に伴う特別措置を実施します。

2020年４月以降災害救助法適用地域に居住する保護者が被災（家屋全壊・家屋半壊）された本学志望の受験生に対し、2021年度入学検定料と入学後の初年度授業料等減免の特別措置を講じます。

対象　2020年４月１日以降、家計支持者を含む家族が居住する家屋が災害救助法適用地域にあり、かつ全壊もしくは半壊の被害を受け、被害認定された2021年度入学志願者。

東京農大2021年度 入学者選抜情報

①一般選抜 A日程の試験会場は、全国23会場で実施
②一般選抜 B日程は、全国10会場で実施
③大学入学共通テスト利用選抜前期・後期日程を実施

お問い合せ先
世田谷キャンパス〈応用生物科学部・生命科学部・地域環境科学部・国際食料情報学部〉
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1　入学センター　TEL.03-5477-2226
厚木キャンパス〈農学部〉
〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737　入学センター（農学部）　TEL.046-247-4433
北海道オホーツクキャンパス〈生物産業学部〉
〒099-2493 北海道網走市八坂196　入学センター（生物産業学部）　TEL.0152-48-3814

キユーピー

手を携え食材の良さを広め

茨城県阿見町

連携協定　企業や地域と研究進める

特産品でメニュー開発

栄養科学科准教授　秋山　聡子

農大生考案のヤーコン＆レンコン入り酢豚

農大生考案の常陸秋そば団子

東京農業大学と茨城県阿見町の地域連携活動は、生物産業学部と平成26年5月に連携協定を締結し、さまざまなプロジェクトを進めたことに始まる。プロジェクトの遂行を通じて、他学部との連携も強化され、活動の幅が広がったことから、31年3月に改めて本学との連携協定を締結した。

連携活動の一つとして、30年からは「地域資源を活用した新商品開発・産地振興事業」と題し、阿見町の特産品であるヤーコン、レンコン、常陸秋そばを用いたメニュー開発を進めている。

特に力を入れているのはヤーコンである。ヤーコンは、キク科の植物で、南米のアンデス高地が原産地とされており、1980年代に日本で初めて試験栽培された場所が阿見町なのである。食用部の根は、加熱後はもちろん、果物のように生でも食べられる。また、フラクトオリゴ糖やミネラル、食物繊維を豊富に含み、その機能性が期待できる。しかし、日本での知名度は低い。もし、スーパーにヤーコンが陳列されていても、食べ方を知らないため購入しない人が大半ではないだろうか。実際に「売れないから作らない」と、生産を断念した方も多く、現在の阿見町内の生産者数はわずかである。

酢豚と団子のレシピを使用し販売された食事

いきいきプラザにて販売された食事のポスター

そこで、ヤーコンを含む地元食材を使用した外食向けメニューの開発を行った。外食での地元食材の利用は、食事に含まれる食材の消費量を増加させるだけでなく、その食事をきっかけに、地元内外の人たちに食材について広く知ってもらうことが期待できる。

初めに、栄養科学科の学生が阿見町を訪問し、地元住民の方々への聞き取り調査を行い、家庭では食べられていない新しい食べ方を模索した。その後、研究室で実験を繰り返し、食材の調理特性を把握しながら、試作を重ねた。考案したメニューは、農大生考案メニューとして阿見町から発信され、令和元年12月には提供したレシピを基に、東京都港区の福祉施設である「いきいきプラザ」で食事が提供された。連日、売り切れるほどのご好評をいただき、阿見町とその特産品の宣伝にもつながった。

そして現在は、高齢者向け介護食品の開発を進めている。日本の高齢者は、食物繊維の摂取量が不足している。そこで、食物繊維を豊富に含んでいるが、硬くて高齢者では食べにくいヤーコンを、一度パウダーにして介護食に導入すべく、試作を重ねている。

地域農業の活性化のため、消費の場を増やす一助になればと、今後も消費の仕方（食べ方）を発信していきたい。

野菜や卵の味、機能追究

キユーピー「エッグイノベーション」寄付講座・寄付研究部門客員教授　半田　明弘

平成29年8月2日に東京農業大学とキユーピー㈱は包括連携協定を締結した。キユーピー㈱はマヨネーズ・ドレッシング商品のメーカーとして知られているが、キユーピーグループは5事業分野（調理・調味料、サラダ・惣菜、卵、フルーツ・ソリューション、ファインケミカル）で幅広い商品を提供している。また、グループの目指す姿として「サラダのキユーピー」「タマゴのキユーピー」を標榜している。

サラダ（野菜）と卵の基盤研究をスピーディーに実施するため、また、サステナビリティや健康寿命の延伸といった社会課題に食を通じて対応するためには、農業や食品加工、食品の健康機能評価について幅広く専門性を有する東京農大との連携が不可欠と判断した。

具体的には、野菜と卵の新たな加工技術開発、おいしさ・健康機能評価、未利用資源の活用などを、共同研究という形で進めている。すでに共同研究テーマとしては「水稲の生育ならびに食味に対する卵殻施用の効果」「卵殻膜ペプチドの摂食による皮膚への影響」「卵白の加熱ゲル形成機構解明」などが完了している。

新しい取り組みとして「野菜科学研究会（仮称）」の設立を構想している。野菜に関する消費者の質問に答えるデータベースを作成し、タイムリーに返答する情報提供サービスシステムの構築を目指している。包括連携は、技術開発だけでなく、世の中に役立つサービスの提供やシステムの構築も探索していく。

共同研究「卵殻の付加価値化と社会貢献」が表彰された

令和2年4月1日には、包括連携協定の一環として東京農大とキユーピー㈱で「エッグイノベーション」寄付研究部門を開設した。期間は3年間である。ミッションは、鶏卵の、熱凝固性や起泡性といった日常の調理になくてはならない物性機能の改質である。

寄付講座メンバーの一部（食料資源理化学研究室にて）

新しい手法でユニークな物性を創出することで、食卓をより豊かなものにすることを狙っているが、同時に特許出願、学会発表、論文投稿を通じて成果を積極的に世界に発信し、東京農大に卵の研究室があることを知らしめたい。学内や学外との連携も視野に入れながら常時新規テーマの探索も行っている。

現在、世田谷キャンパス・農大サイエンスポート6階の応用生物科学部農芸化学科食料資源理化学研究室に間借りさせていただき、当学科の教授である辻井良政先生と二人三脚で運営している。4人の学生と1人の派遣社員が卵白やゆで卵についてのテーマを担当し日々実験にいそしんでいる。実社会に役立つ研究とは何かをしっかり学んでいただきたい。

農大貢献賞を受賞して

生体捕獲されたエゾシカの短期飼育に関する研究

北方圏農学科　教授　相馬　幸作

今回の受賞のきっかけとなった研究は、生体捕獲されたエゾシカの短期飼育（一時養鹿）に関する研究です。ご存じのように、ニホンジカをはじめとする野生動物による農林業被害が問題となっています。この対策として国をはじめとして地方自治体は狩猟による個体数削減を進めています。北海道では、一歩踏み込んだ施策を展開しており、平成27年度から捕獲個体の有効活用事業を展開しています。

鹿肉は高タンパク、低脂肪、高鉄分といった健康に良い食材ですが、エゾシカの有効活用事業が始まった際、鹿肉の食味に関する市場からの評価は低いものでした。これは主に、狩猟後の放血処理が関係しており、処理を行う人の腕次第で評価が二分するといった感じでした。このため、一定品質のエゾシカ肉を市場流通させなければ鹿肉のおいしさが評価されず、消費者にも受け入れてもらえないことは既に認識されていました。加えて、食肉に関する事故が多かった時期でもあり、市場からは鹿肉の履歴に関する厳しい意見を受けていました。

エゾシカ放牧地の調査

市場に一定品質の鹿肉供給

このため、高品質の狩猟肉を流通させるためには、一定品質の鹿肉を市場に供給して評価を高める必要があり、その一案として冬季間に囲いわなどでエゾシカを大量に生きたまま捕獲（生体捕獲）して牧場に搬送し、短期（最大半年間）飼育を行って市場に一定品質の鹿肉を供給する事業（一時養鹿事業）が提案され、北海道が推進し始めました。

根室エゾシカ牧場の調査

これに呼応して地元の名士が地域貢献として牧場を開設、現在では北海道で5カ所の牧場が開設されています。しかし、牧場の経営者は、農業サイドから見ると、いわば「異業種」からの参入者です。加えて、一時養鹿では生体捕獲したエゾシカをその年のうちに処理し、翌冬の捕獲時期の個体受け入れに対応する必要があり、既存の畜産に比べると短期飼育は特異な飼育方法が求められます。このため、東京農大はいわばチーム北海道の一員として、さまざまな形でエゾシカの有効活用に関する研究協力をしてきました。

評価が高まり枝肉の取引も

前置きが長くなりましたが、私の現在の研究は一時養鹿の要である牧場における生体捕獲エゾシカの飼育管理方法を中心に行っています。元々、私は乳牛に給与するサイレージや新規動物資源としてのエゾシカ活用へ向けた飼育研究を行ってきました。実際の飼育環境下でのデータがなければ、何が起こっているのか分かりませんので、これまでの研究成果を基礎とし、短期飼育で出てきた課題の解決や事業の検証のため、学内の飼育施設や牧場において、関係する研究者と共に飼育成績、給与飼料変更やそれに伴う肉質の変化などの関連データを収集してきました。

エゾシカ肉の食味試験

これまでに得られたデータはさまざまな場面で活用され、徐々にエゾシカ肉の評価が高まってきました。今では、家畜並みに枝肉で取引されるまでになりました。また、生産者の努力により「北海道認証」が得られています。われわれの研究成果については、食を通じて評価いただけると幸甚です。首都圏ではジビエを扱うお店が多く、地元よりも堪能できるお店が多くあります。また、通信販売でもお取り寄せできます。ぜひ、北海道認証ブランドの鹿肉をお試しください。

最後に、私の研究は年度をまたぎながら半年に及ぶ現場作業が主で、一見すると厳しい内容です。しかし、卒業論文研究や学位論文研究などで自ら行動し、私の研究を支えてくれた在学生と卒業生のおかげで成し得た研究成果ばかりです。改めて、ご協力いただいた在学生と校友の皆さまにお礼申し上げるとともに、今後の活躍に期待しています。

研究室紹介 Introduction 39

植物と生活

地域環境科学部 造園科学科　造園植物・樹芸研究室
教授　鈴木　貢次郎

造園学科時代の造園樹木学研究室から、造園植物に関する基礎的な研究を基本にしながらもやや応用学的な見地を強めるため、平成29年度から造園植物・樹芸研究室になりました。「芸」は「藝」の省略形で、「藝」は「草木を植える」意味になります。

①地域小学生と研究室員との共同による川崎市麻生区にある早野梅ケ谷特別緑地保全地区の保全活動

拝金主義が当然のように漂う現代社会の中、今や公園や街路樹、庭園の植物までも邪魔もの扱いになることが多く、不要になれば伐採処理、気付けば消耗品扱いになっています。こんな状況の中、私たちの研究室では、古典的かつ時代に合った植物と生活の関係を探求し、生物界に生きる一員としての真の豊かさを求めています。

植物は語る

例えば、「都内にある六義園にクスノキの巨木が多いのはクスノキを有用植物として重んじた岩崎弥太郎が一時期所有していたから」など、植物調査を通じて社会背景や歴史を学ぶことができます。そのことは、里山の植物でも同じこと。フィールドワークで二次林や竹林、その林床植物などの保全活動や地域の小学校への環境教育などを行いながら調査研究に臨んでいます＝写真①。

これまで、大学院生や学部生を中心に、里山や庭園の植物、巨木・老木、日本の国花であるサクラ、街路樹などを研究材料に取り上げ、植物の繁殖習性や植栽・管理技術、樹木医、文化的背景について、アジア諸国（タイ、中国、台湾、フィリピンなど）で調査してきました。

中でもサクラの研究は、金澤弓子准教授を中心に、ソメイヨシノに代わる早咲き性サクラの作出に関わる諸問題を取り扱っています。カワヅザクラやアタミザクラをはじめとし、早咲き性サクラの親種を遺伝子レベルで探ると共に、再現試験による作出と新たな繁殖法の開発に成功を収めました。

里山の植物については自治体と地域連携し、神奈川県川崎市麻生区にある早野梅ケ谷特別緑地保全地区の林床植物としての希少植物（タマノカンアオイなど）や、低木、高木の保全研究を10年以上継続し、希少となってしまった植物の生態や要因を明らかにしてきました。巨木・老木の研究については、その地域での役割や、長年守られてきた社会背景や地形、その種の特性など、国内だけでなく英国や台湾、中国南西部まで足を延ばし、これらの地域の文化や植物の生態などとも比較・考察しています＝写真②。

②英国での巨木・老木の調査、学習

生活を潤すはずであった街路樹も、今や都市の嫌われものになることが多いようです。倒木原因などを里山の植物の調査結果などから比較・考察し、これまであまり言及されてこなかった土壌の物理性と植物の生育に関わる問題などを調べ、土壌の物理性の改善の重要性を訴えています＝写真③。

③東京都町田市での街路樹倒木後の土壌調査

つなぐ

研究室内の研究内容をつなげることが、研究室の看板になることはもちろんであり、そのためには、研究室内の研究・教育体制をつなげることが使命になります。社会と研究室、フィールドと実験室、理論と実践、都市と地域、自然と人工、日本と世界（国際化）、社会科学と自然科学、そして時間を要する木本を取り扱う研究であるからこその先輩と後輩、教員と学生というチームワークを重視しています。中でも国際化については、近々の課題です。造園植物に関わるさまざまな問題が、世界的に共通する問題として取り上げられています。日本の樹芸（Arboriculture）は、世界に誇ることができる伝統ある高度技術です。造園・園芸立国の英国の学会などに積極的に参加する一方、フランス、中国、フィリピン、ミャンマーなど、さまざまな国からの留学生の受け入れと交流を行い、多様性を実現しています。

人ズムアップ 36

偉翔生技開発股份有限公司
（㈱ウェルシャイン・バイオテクノロジー）
総経理（代表取締役）**藍 蒼洲**氏
（平成16年大学院農芸化学専攻博士前期課程修了）
（東京農業大学校友会 台湾支部 幹事長）

健康食品の開発に力

家業のバイオテクノロジー事業を継ぐため、東京農業大学に留学し農芸化学を専攻した藍蒼洲氏。校友会台湾支部の幹事長を15年間務め、今なお東京農大との絆を大事にし、台湾人学生の東京農大留学も積極的にサポート。経営する会社は東京農大にとっては海外では第1号となる産学連携協定を締結した。藍氏に留学から会社経営まで、その一端を紹介していただいた。

幸せな企業づくりに尽力。契約店表彰式で（2019年2月24日、台北市内）

私は藍家の長男として、父親が経営していた偉翔生技開發股份有限公司（株式会社ウェルシャイン・バイオテクノロジー）に入社しました。

ある日、会社を訪れた企業家から「自社ブランドを持っていなければ衰退の道をたどる。さらに、自社での研究開発と自己販売能力を身に付けることが肝要である。それなくして息子に会社を継承させるのは危険だ」と指摘されました。

それを聞いた私は、日本への留学を決意し、歴史と伝統のある東京農業大学の農芸化学科で学ぶことにしました。3年次に食料資源理化学研究室の髙野克己教授に指導を受けて基礎を学びました。学部卒業後は、大学院博士前期課程に進学し、家業につながるようなテーマを与えていただき、「大豆7Sおよび11Sと小麦粉タンパク質の相互作用の解析」について研究を行いました。ご指導いただいた先生方のおかげで今の自分があると感謝しています。

勉学以外にも、日本人の親しみやすさと礼儀正しいことを学び、会得することができました。

一期一会の心遣いで御禮ブランドを広める（同上）

修了後は、家業の会社を引き継ぐことになりました。今は総経理（代表取締役）を務めています。当社は希少な薬用真菌栽培技術の開発に力を注ぎ、人々の健康増進に優れたバイオテクノロジー製品、台湾の国宝である「樟芝（ショウシ＝ベニクスノキタケ）」を国際的な健康食品として広めることを目指しています。

東京農業大学と産学連携協定を正式に締結。前列右から髙野学長、藍蒼洲氏、弟の藍仲民氏（2019年11月6日、農大世田谷キャンパス）

これまでに台湾・米国・香港・中国などの特許を取得するとともに、米国のFDA（食品医薬品局）輸入許可や台湾経済部工業優良賞を受賞しました。自社ブランド〝御禮〟シリーズ商品を150カ所の契約店で販売しています。

一方、当時、台湾留日同学会会長であった東京農大の豊原秀和教授の要請で校友会台湾支部の幹事長を仰せつかりました。校友会台湾支部の校友会台湾支部幹事長として、来台する東京農大の教職員、校友会関係者、教育後援会ならびに多くの学友との絆を大事にしています。そのおかげで、2019年に海外では第1号の産学連携協定の締結を実現しました。恩師髙野学長と協定書を交わすことができ、この上ない喜びです。今後とも母校と台湾留学生の世話役として務めていきたいと願っています。

偉翔生技開發股份有限公司
（㈱ウェルシャイン・バイオテクノロジー）の概要

本社所在地	台湾台北市南港区園区街3号11階の5　F棟 南港ソフトウェア工業園区バイオテクノロジー会館
URL	http://www.wsbio.com.tw
事業内容	紅樟芝きのこの栽培、受託加工および販売
〈沿革〉	1987年 創業、霊芝（レイシ＝マンネンタケ）の受託加工、自社ブランド御禮霊芝の販売 2000年 紅樟芝きのこの栽培に成功 2003年 日本厚生労働省から紅樟芝きのこの輸入許可 2004年 紅樟芝きのこ学会発表（以降、2008年と18年にも発表） 2006年 米国のKGC社と契約し翌年、米国へ販売開始 2009年 自社ブランド〝御禮、シリーズ商品を開発 2010年 サチャインチのオメガ3をパウダー化 2016年 〝御禮、シリーズ商品の契約店150カ所に ベトナム製薬会社BPと契約し、ベトナムに輸出開始 2019年 〝御禮、シリーズ商品20種類以上開発
社員数	正社員37人、契約社員6人
自社ブランド	自社ブランド〝御禮、は、サプリメントの紅樟芝シリーズ、オメガ3シリーズ、スキンケアのエミュークリームシリーズなど。

食と農の博物館だより

企画展示①

「歯」から見る恐竜時代展

私たち人間の歯は、先端が薄くて食べ物をかみ切るための前歯、先のとがった円すい形をしていて、食べ物を食いちぎったり引き裂いたりする犬歯、そして食べ物をすりつぶす役目の臼歯の大きく分けて3種類の歯がある。それは、人が雑食性の生き物であり、いろいろな食べ物を取り入れられるようになっているから。

つまり動物の「歯」を観察することによって、その動物がどのようなものを食べ、どのように取り込んでいったかが分かる。それは、既に現存しない「生き物」であっても同じなのだ。

この展示では、中生代＝恐竜時代の生き物を「歯」から考えてみたい。

○会期：①②とも10月9日（金）～令和3年4月11日（日）

企画展示②

自然の中の数学展

自然を眺めるときに「美しい」と感じることがある。その理由の一つに、実は数学がある。自然界の中には、さまざまな数学の法則や仕組みが隠れている。

数学は、本学で取り組んでいる農学の各分野をはじめ、自然科学に携わる上で、欠かすことができないものだ。本展では、身近な自然の中に存在する数学を紹介し、数学が苦手という方にとっても、「へぇー、そうなんだ」とひかれるような展示を心掛けることによって、自然の中から数学を再発見することを目的とする。

博物館の新型コロナウイルス感染防止対策

①事前予約制（ホームページから）
・6月16日から実施
・氏名と連絡先の把握
②平日のみ3部制開館（10月から2部制開館）
③1部30人の入館制限
④団体見学の中止
⑤入館時にサーモカメラによる自動検温（体温37.5度以上不可）とアルコールによる手指消毒の実施
⑥注意事項
・マスクの必携と着用
・展示物への接触禁止
・大声禁止
・人と人の距離を2㍍以上離す
・小学生以下の子どもだけの入館禁止
※政府および大学などの状況により、急きょ休館の場合はホームページ掲出。

6月は72人で、7月は186人、8月は319人の方々の見学がありました。

人ズムアップ 37

㈲豊心ファーム
代表取締役社長
境谷 一智氏
（平成9年生物生産学科卒）

青森県五所川原市で稲作農業を営む有限会社豊心ファーム代表取締役社長の境谷一智氏と同社取締役常務の境谷稔顕氏は管理面積243㌶に及ぶ大規模水田経営を実現し、兄弟で「東京農業大学経営者フォーラム2019」で経営者大賞を受賞。兄の一智氏に就農の契機から現在の経営内容、新世代のリーダーとしての考えなどを紹介していただいた。

豊心ファームライスセンター（左から境谷一智さん、父の博顕さん、弟の稔顕さん）

地域守る大規模水田経営

昨年、農大経営者フォーラム2019に校友会青森県支部から推薦を受け、私ども兄弟が栄えある経営者大賞をいただきました。高野克己学長から賞状と記念品をいただき、あの感激は一生忘れることはありません。

私は、平成9年3月、北海道オホーツクキャンパスの生物産業学部生物生産学科を卒業し、4月に父が営む稲作農業に就農しました。翌年、10年後の地域農業を見据え、規模拡大を目指して父と有限会社「豊心ファーム（農業生産法人）」を立ち上げました。弟は14年、農学部農学科を卒業し、築地市場の仲卸会社に就職してマーケティングを学び、17年に入社しました。

2人とも東京農大進学の目的は就農のための知識や技術の習得ですから、現在の立場からすれば問題ありません。ただ当時を思い出すと「自分を知るため（何のために生まれて、何をして生きるのか）」に悩んだように思います。父は葛藤の時期を仲間が居る東京農大（育つ環境）に設定してくれたのでしょう。

少し農業の話をすると、担い手不足による離農が多くなり、農地の集約が進みだしました。一方、経営受託・作業受託も増え、農村景観・生活は一変しました。戦後の農地改革は何だったのか。受け皿の法人としては、手続きの煩雑さとビジネスを取り巻く環境の変化に戸惑うことが多く、時々、東京農大の仲間に話を聞いてもらいます。

今年は「変化には変化で」と心に決め、新たに「仕事の見える化」と「目標の数値化」を方針に加え、力点を「銘柄米にこだわらない業務用多収品種の生産拡大」「大手商社系の飼料会社と連携した飼料用米生産拡大」「管理能力の高い人材育成」に置きました。

遠くない未来に大離農時代が来ると考えています。問題は食料自給だけにとどまりません。リスクを最小にするため県をまたいで情報共有ができる組織構築を積極的に呼び掛けています。

私たちは地域に根差し、引き続き地域農業と地域資源の維持管理に貢献していく覚悟です。

水稲乾田直播（ちょくは）のための砕土作業。山は残雪の岩木山　（5月）

汎用（はんよう）コンバインによる大豆収穫　（10月）

経営状況

㈲「豊心ファーム」の経営は、水稲51㌶、大豆45㌶、小麦8㌶、飼料用米24㌶の他、高齢化が進んだ周辺集落の経営受託・作業受託を受け、管理面積は約243㌶です。その規模は、米国の農家一戸当たりの経営面積178㌶を上回っています。

現在の規模を維持し生産性の向上を図るため、6人の通年雇用を堅持しつつ、大胆で慎重な設備投資を従業員の意見も取り入れ実践しています。また、別部門に、無人ヘリによる薬剤散布事業や稲わら収集事業を設け、地域農業と地域資源の維持管理にビジネスを通じて積極的に貢献しています。

未来予想図では、耕作規模を2000㌶程度まで拡大し、農商工連携や6次産業化により地域雇用を増やし、農福連携も可能な農業生産法人にしたいと考えています。

東京農大の本

心とからだをもっと元気に―
二十四節気を楽しむ薬膳

薬膳健康づくり研究会 編著
定価：本体2400円＋税
A4判変・並製・カラー

◇健康長寿の食養生を学ぶ。◇節気に合わせた168品・24献立を紹介。◇立秋からの節気では「ざるそばのトウガン入つゆ」「にがうりのチーズ入肉詰め」など。お薦めは「うなぎの山かけ丼」、この時節ならではの料理が登場する。

旨みを醸し出す―
麹の不思議な料理力

前橋 健二・浅利 妙峰 著
定価：本体1200円＋税
A5判・並製・カラー

◇麹（こうじ）を知る本の決定版。麹の力を知って、食材を生かす。身近な料理を演出してみてください。◇前橋健二教授の科学の目、浅利妙峰こうじ屋女将の伝統の目で、秘められた麹の力を説く。麹を使った簡単に作れるレシピ満載。

わが家は低塩・無添加のお漬物
―プロ技伝授―

大島 貞雄 著
定価：本体1600円＋税
B5判変・並製・カラー

◇初心者でもおいしい漬物を作り、食生活を楽しむために。◇家庭に本物の漬物を届けるため、本物の漬物をつくる漬け方のこつ、知恵を説いている。プロの技をつかんでほしい。

科学技術メディア社会
―科学ジャーナリズム・コミュニケーション入門―

北村 行孝・柴田 文隆 著
定価：本体2600円＋税
A5判・並製

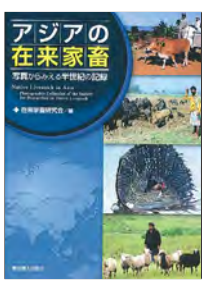
◇科学技術文明といわれる現代人類文明の行方、科学技術と社会の関係、科学技術に関するコミュニケーションに関心のある人たちのための入門書。テキスト。◇2人の著者は前読売新聞科学部長。

食農と環境
No.25

実践総合農学会 著
定価：本体800円＋税
A5判・並製

◇スマート農業の展開について◇ICT農業とスマート農業の現状と将来◇食農と環境の最前線レポート：高校における食農と環境教育の取り組みなどを掲載。現場からの発信がモットーの実践総合農学会の機関誌。

アジアの在来家畜
―写真からみえる半世紀の記録



在来家畜研究会 編
定価：本体5000円＋税
A4判・上製・カラー

◇在来家畜の源流を探る目的で、鹿児島県トカラ列島からアジア17カ国の家畜の形態・遺伝的特徴や飼育に関わる生活文化、家畜を通して人々の暮らしにも触れた記録である。写真は900枚を超す。

申込先
東京農大出版会
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1
電話 03-5477-2666
FAX 03-5477-2747

箱根駅伝への道ｏｎｅコイン募金

協力者ご芳名

※令和２年４月から９月までに校友会本部にお届けいただいた方々です。以降も協力された方については毎号掲載させていただきます。（順不同、敬称略）

【北海道】
阿部昭彦　宮田純一　駒形啓介　長信一郎　田中四郎

【青森】
野坂秀樹

【岩手】
駒井元　長山一夫　内記和彦

【宮城】
伊藤裕之　会田保良　門間清　鈴木和人

【秋田】
加賀孝司　高橋永樹　佐々木孝志　北林強

【山形】
後藤英之　後藤康太郎　小野寺徹　石田隆一　多田丈弘

【福島】
齋藤幸祐　佐瀬忠男　志賀浩一　酒井慎二　大平善章　渡部豊治　藤田宗夫　那知上徹　平山長一　髙橋庄作

【茨城】
加藤裕之　海野浩俊　兼村清雄　恒川芳克　高野三郎　秋葉光頼　長谷川泉　東谷昌明　木嶋孝　澤畠治

【栃木】
岩渕守男　吉田靖　川村肇　平山克典

【群馬】
戸田雅稀　五十嵐周季　柴崎源喜　柴崎補助　小和田和貞　上原伸吾　上原由美　須田洋史　清水基　中山康雄　中澤丈一　北澤哲也　和泉一郎

【埼玉】
松本康博　越川照夫　遠藤大介　岡山春紀　岡本素子　関根家松　吉田健一　佐々木淑元　柴田忠雄　森田勝　早川照彦　大曽根勝　福田實　齋藤秀行　安達哲司

【千葉】
岩瀬和夫　菊地謙二　金子浩　熊谷翔太　荒木信枝　黒坂祐治　黒田好二　山口君枝　小幡淳　石井孝二　竹内宥太　鳥海稔雄　田川博　田中久美子　渡辺武能　日高貞雄　福井康平

【東京】
井上洋子　嘉屋治雄　宮澤明日香　金子徹　熊谷淳　高木光　合田佳　坂田和子　三浦英樹　市原幸文　小牧昭次　神田昌幸　成瀬済　星野勇介　西夏樹　川原均　大場淳一　大柄仁　大木茂　大澤正明　中村忠義　鶴田義久　飯田有紀　比留間孝明　平林真弓　目裕美子　和泉敏夫　櫻木薫　支部一同

【神奈川】
阿部英祐　井手上末生　井上隆弘　井沢茂　越渕光子　奥山拓雄　加藤恒雄　鴨志田敏彦　銀山健　細谷晋之　坂下年宏　坂間登　三好吉清　山本由布子　松浦一司　水田明　青木豊　石渡卓司　大石壽治　蓑茂壽太郎　木村圭三

【山梨】
宮川俊一　小林修　上野喜弘　落合正仁

【長野】
伊藤郁子　伊澤宏爾　岡本素子　加藤香　丸山忠孝　吉川充昭　吉澤顯　栗原綾子　戸澤俊徳　今村操　坂本充　笹沢一晃　上島和喜夫　上野猛仁　青木孝憲　前田善男　早川孝志　瀧澤嘉市　池田幸宣　竹村彦孝　辻洋子　藤牧俊一郎　望月隆　北村政夫　木内靖　林新一郎　櫻井茂隆　澁沢登

【新潟】
井部三男　稲部宗宏　羽生雅克　荻荘誠　加藤昭夫　柿村徳成　梶井重一　関崎政一　岩出久夫　原正博　内与志郎　五十嵐正美　更科紘圀　高橋学　高野俊　小熊紀義　小林郁夫・江利子　小林一道　小林敦　斉川永年　大口鉄雄　谷口豊　中村将志　田辺一輝　田邊光　土田正次　平野宏　鈴木和夫　齋木修

【富山】
高橋孟寛　新川謙介
▽支部総会　井幡潔　久郷慎治　広田祐一　黒崎充島秀昌

【石川】
宇野晃　鹿野頼宣　松本栄八郎　南春夫　樋口勇　武朝尾高明　門脇勇夫　支部一同
▽支部役員会　参加者一同

【滋賀】
河村栄一　上西宗市　谷一

【京都】
岩崎敏之　岩田正章　宮城敬　宮入勲　高石正之　小西偉世　小畑晴　松山正治　川邉哲平　大道錬一　中村善人　中野宏　平野正樹　鈴木博　和田良次

【大阪】
金田真司

【兵庫】
金谷秀和　笹倉恭一　植村裕哉　大石貴洋　池田邦寛　田尻一雄

【奈良】
片岡市蔵

【和歌山】
黒田真

【鳥取】
森田尚子　西村良夫　野口理
▽支部総会　塩谷俊樹　角田将道　岩垣慎　山根章司　山崎達郎　小谷寛毅　前田栄久　田中雅巳　牧田政人　濱田淳

【島根】
吉田康雄　西尾誠治　青木淳

【岡山】
石戸辰典　安田勝美　井原敬典　横林秀樹　広瀬敬彦　高橋正侑　国富孝　小見山昌夫　小見山茂樹　真鍋現次郎　石井秀生　赤澤光彦　川部弘平　前畠敏成　津島孝宏　内田守　武則啓子　武田一昭　平尾三千夫　野島泰來　實村文昭

【広島】
安本勝昭　伊藤勝也　吉光康雄　久保正道　金子信行　行正憲司　高橋敬明　黒田幸喜　佐々木栄治　山根大文　山本久司　山本賓　松平岩男　畝茂　石田武司　川原嬉生　川口潤　川中敬三　川本英介　島原祐哉　日下部健　八谷文策　福島偉人　野村英雄　友岡航俊
▽広島分会　居升邦彦　高橋敬明　谷口廸生　長原毅　福島正博

【山口】
羽鳥敬祐　羽鳥宗祐　加藤和宏　高嵜達生　山本義文　木下辰己　木村泰博　廣兼淳司　安達哲司

【徳島】
山本祐三郎

【香川】
塩田洋介　山本晃久　山本敏一　松本義博　川人裕一郎　平塚靖司　湊和孝　野村修一

【愛媛】
忽那哲郎　藤本明男　矢野一臣　檜垣賢悟

【福岡】
亀頭寿太郎　牛嶋泰樹　松田宣子　深町吉秀　水崎美孝　大内和祐

【長崎】
為永一夫　横山省三　吉村賢一郎　川添成行　大下史郎　池松正弘　中富正昭　野瀬耕一

【熊本】
阿曽田清　今井正則　三森孝一　村田健　大島孝一　田中清子　白木國夫

【大分】
五島遼太郎　江渕真一　麻生英征
▽支部教職員部会　参加者一同
▽支部総会　参加者一同
▽日田支部　有志一同

【宮崎】
有志一同

【鹿児島】
加治屋幸雄　守田知則　神孝輔　中村庸夫　楠八重清久　楠八重大樹郎

皆さまのご協力に感謝

陸上競技部強化を支援するために校友会が母校・農大と一体になって始めた「箱根駅伝への道ｏｎｅコイン募金」は３年目となりました。

コロナ禍で大変な中、今年度もご協力いただきました全国の校友、農大ファミリーの皆さまに厚くお礼申し上げます。

令和２年度通常総会（５月予定）の席上、陸上競技部に「ｏｎｅコイン募金」を寄贈する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため通常総会を開催することができず、６月19日の校友会常任理事会におきまして、寄せられた寄付から第４期分200万円を男子長距離セクションの強化対策費として、小指徹監督に手渡しました。

小指監督は「ｏｎｅコイン募金を活用して強化ができている。一日も早く本格的な練習を開始し、10月17日の予選会を突破したい」と本戦出場への決意を表明しました。

＜これまでに寄せられた寄付金＞
（令和２年９月末現在）
◆件数 4,862件　◆金額 11,586,433円

常任理事会でｏｎｅコイン募金を寄贈

募金額
(1)一　口　500円以上（複数回）
(2)全体目標　1億円（1000万円／年）
(3)支部別目標　1支部200万円（20万円／年）
(4)募金期間　平成30年４月から10年間

募金の仕方・集め方

銀行送金で寄付

1 寄付金控除を希望しない場合
①ゆうちょ銀行「払込取扱票」にてお振り込みください（**校友会ニュースに同封**）。
②一口 500 円以上（金額にかかわらず何口でも、何回でも、毎年でも）
③送金手数料は掛かりません。

2 寄付金控除を希望する場合（大口寄付）
東京農大スポーツサポート募金（同封のパンフレット）の三井住友銀行、三菱東京ＵＦＪ銀行、ゆうちょ銀行の「払込取扱票」でお振り込みください。

校友会支部総会などの集会で現金を寄付

①一口 500 円以上（金額にかかわらず何口でも、何回でも、毎年でも）
②原則として、募金用紙（**写真下**）に名前・金額を記入して募金箱（**写真下**）に投入してください。
③領収書は発行しません。
④校友会支部長（または幹事長）は、集会ごとの寄付金をゆうちょ銀行「払込取扱票」でお振り込みください（募金箱に投入された募金用紙は本部に郵送してください）。
⑤払込取扱票通信欄に「（例）○○支部総会参加者一同」と記載してください。

＊校友会本部への寄付者のご芳名は、原則として校友会ニュースに掲載いたします。なお、お礼状のご送付は割愛させていただいております。
＊「箱根駅伝への道oneコイン募金」についてのご質問などは校友会本部にお問い合わせください。

話題の図書

アジアの在来家畜
写真からみえる半世紀の記録
在来家畜研究会　編

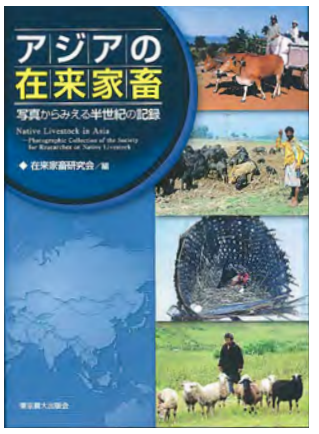
『アジアの在来家畜　写真からみえる半世紀の記録』の写真集が8月7日、刊行された。

これは昭和36年、本学をはじめ鹿児島大学と名古屋大学の先生方で組織された日本在来家畜調査団（現・在来家畜研究会）が当時、絶滅の危機に瀕していた在来家畜の源流を探る目的で調査してきた記録。鹿児島県トカラ列島を皮切りに、アジア地域の国々までその活動を広げ、現在までに調査を終了した17カ国の家畜の形態・遺伝的特徴や飼育に関わる生活文化にも触れた民俗的な記録でもある。

900枚を超すカラー写真が収められ、美しく装丁された写真集でもある。家畜を通してアジア地域の人々の暮らしをも知る上で、一般の方々にも気軽に手にしていただけるものと思っている。

本学では名誉教授の鈴木正三先生（故人）をはじめ田中一栄先生、天野卓先生が当初から活動しており、現在も、本学動物科学科の動物遺伝学研究室の先生方に引き継がれている。その成果は広く学会でも知られ、各大学の授業でも紹介されているだけに、学生の参考書としてもぜひお勧めしたい。

（元東京農業大学教授　黒澤弥悦）



本体価格5000円。A4判上製オールカラー。東京農業大学出版会（電話03－5477－2666）刊。

校友会から

住所変更などのご連絡

住所変更や改姓、会員がご逝去された場合は、次のいずれかによりご連絡願います。

①校友会ホームページ（HP）に新しく「会員名簿変更フォーム」を設置しました。スマートフォンからは左のQRコードからも入力できます。

②校友会HPの「会員名簿変更届」にご記入いただき、FAXでお送りください。

FAX 03-3427-2271
E-mail ko3883@nodai.ac.jp
https://www.nodai-koyukai.jp

校友会HPをご活用ください

校友会のHPでは、校友会本部の会議予定や内容、都道府県各支部の役員、支部規程、支部総会の開催予定、年度計画、活動報告など、各種情報を掲載しています。

掲載を希望される場合は、本部にご連絡願います。随時、支部のページを更新します。スマートフォンからは右のQRコードで。

東京農業大学校友会　検索

校友会ニュースはHPで閲覧できます

校友会ニュースの紙面はHPに掲載。バックナンバー（平成25年10月以降）も閲覧できます。スマートフォンからは上のQRコードで。

支部総会・教職員部会などにご参加を

コロナ禍で各種イベントが中止または延期になっていますが、例年は都道府県支部で支部総会や教職員部会、女性部会など、多くの職域部会・分会が開かれています。母校農大の近況を知る機会です。再開の折にはこれらの会合にぜひ、参加してみてください。

グリーンアカデミーホールのご利用案内

グリーンアカデミーホール（校友会館）は大学敷地の西端にあり、学生寮に隣接する緑豊かな閑静な場所にあります。

館内には、安価でご利用できる休養室（洋室ツイン2室、和室15畳2室）や会議室（大・中）、レストランなどがあります。

卒業生、現役生、学生保護者のご利用をお待ちしています。校友のご紹介があれば、一般の方も利用できます。

予約は6カ月前の月初めから受け付け。平日午前8時30分から午後5時まで。電話、FAX、メールでご連絡ください。

TEL03（3429）1983

会員の動静

令和2年4月以降、支部などから報告があった方のみ記載。

慶

令和2年春の叙勲・褒章を次の方々が受章されました。

▼旭日重光章
新潟県支部
萬歳　章氏（昭43経）

▼旭日中綬章
福島県支部
小桧山善継氏（昭44経）

▼旭日双光章
アルゼンチン支部
猪又　康夫氏（昭36造）

▼旭日単光章
メキシコ支部
松本辰五郎氏（昭19専農）

▼藍綬褒章
神奈川県支部
廣濱　徹氏（昭41造）

▼黄綬褒章
和歌山県支部
山本　聰洋氏（昭53造）

次の方々が当選されました。

▼市町村長
埼玉県支部・美里町
4月26日4期目
原田　信次氏（昭56農）
静岡県支部・藤枝市
5月17日4期目
北村　正平氏（昭44工）
岐阜県支部・富加町
5月19日3期目
板津　徳次氏（昭48造）
栃木県支部・塩谷町
8月2日3期目
見形　和久氏（昭52経）
北海道支部・登別市
8月16日4期目
小笠原春一氏（平元造）
北海道支部・中標津町
8月18日2期目
西村　穣氏（昭53林）
秋田県支部・大潟村
8月18日4期目
高橋　浩人氏（昭58拓）

▼新支部長
次の方が就任されました。
新潟県支部
6月7日就任
荻荘　誠氏（昭58拓）

弔

次の方々がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

横手　克吏氏（平2造）
神奈川県支部4月7日
玉城　勝氏（昭41拓）
アルゼンチン支部
5月14日
虻川　公昭氏（昭26専林）
秋田県支部　5月17日
須郷　定一氏（昭30経）
青森県支部　6月17日
安達　謙二氏（昭26専工）
茨城県支部　6月
谷中　聰氏（昭58経）
茨城県支部　7月20日
塚口　彰氏（昭24専村経）
兵庫県支部　7月22日
石橋　順作氏（昭34林）
神奈川県支部8月9日
浦野　和美氏（昭23専農）
群馬県支部　8月15日
鈴木　廣利氏（昭37化）
静岡県支部　8月18日
杉本　義衛氏（昭45工）
奈良県支部　8月28日
支部長として校友会活動にご尽力いただいていました。
長濱　廣光氏（昭45農）
埼玉県支部　9月19日
（二代目豊山・湊部屋）
酒井　幸宏氏（昭29短農）
茨城県支部　9月22日
佐々木　昭氏（昭26学経）
東京都支部　9月28日
高松　浩二氏（昭28農）
ブラジル支部10月6日
大津　幸雄氏（昭26専化）
茨城県支部　10月17日

東京農業大学校友会 オリジナルグッズ販売

注文方法と商品の発送について

ご購入希望者は、以下の内容をお書き添えの上、東京農業大学校友会までメールまたはFAXでお申し込み下さい。

①氏名、卒年、学科　②送り先住所
③TEL（自宅または携帯）
④FAX（メールでの申し込みの場合は必要ありません）
⑤品名と数量

E-mail
ko3883@nodai.ac.jp
FAX
03-3427-2271

● 校友会で在庫を確認し、送料を加えた販売価格をご連絡いたします。
● 株式会社農大常磐松の口座でご入金を確認し、商品を発送いたします。
※ 新型コロナウイルスの影響によりお客様へのご連絡や、商品の発送が遅れる場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

送金口座　三井住友銀行
経堂支店
普　5096938
口座名義　カ）ノウダイトキワマツ

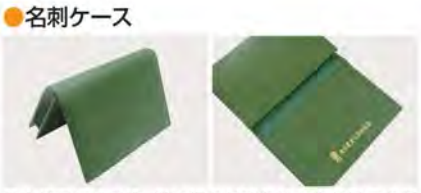
●お問い合わせは
TEL.03-3429-1983

●スプーンセット

農学部生物機能開発研究室の長島孝行教授が開発・デザイン。昆虫タマムシのカラフルな発色を応用した構造色のスプーンセット。高級感あふれるオシャレ感が秀逸です。
税込3,100円

●校友会旗

農友会活動の応援などで使用できるのはもちろん、部屋に飾ってもクールな校友会旗。縦約52cm×横約70cmの程よいサイズです。
税込2,900円

●名刺ケース

農大校友には必携。深い緑色が印象的な牛革製の名刺ケース。見開き部分に金箔押しで農大校友会の名入れがある。収納は約50枚、サイズは105mm×70mm。
税込1,250円

●ネクタイピンB

サイズ:50mm×4.5mm巾、ノセコ:梨地仕上げ（農大マーク八角形）、メッキ:ニッケルメッキ。
税込1,050円

●ネクタイピンA

サイズ:12mm丸、ノセコ:七宝仕上げ（緑色）、メッキ:金メッキ、裏付属:チェーン付きタイタック式。
税込2,100円

●ネクタイピンE

サイズ:50mm×4.5mm巾、ノセコ:七宝仕上げ（農大マーク丸）、メッキ:ニッケルメッキ（本体）、金メッキ（ノセコ）。
税込1,050円

●ネクタイピンD

サイズ:50mm×4.5mm巾、ノセコ:七宝仕上げ（大根）、メッキ:ニッケルメッキ。
税込1,550円

●スカーフ

シルク生地100%のスカーフ。コーデのアクセント、頭や首、バッグに巻いたりと幅広く使える約72cm×約72cmの大判サイズです。
税込4,100円

●ネクタイC

剣先に鶏のワンポイント入り。織り組織もヘリンボーンとすることで見栄えもしっかりしています。
税込4,100円

●ネクタイB

剣先に農大ロゴのワンポイント入り。松葉緑のヘリンボーンに黄色のストライプでどんなシーンでも使えます。
税込4,100円

農友会活動

箱根 今年も残念
1年生活躍 来年に期待

陸上競技部男子 ＝強化指定部

第97回東京箱根間往復大学駅伝競走の予選会が10月17日、東京都立川市の陸上自衛隊立川駐屯地で行われた。東京農大チームは17位に終わり、来年1月の箱根駅伝への出場権は惜しくも逃した。

今年の予選会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、駐屯地内を周回するハーフマラソンコースで行われた。各校上位10人のタイムを合計して競われ、10校が予選を突破することになっていた。

その結果、東京農大チームは10時間39分55秒で、10位の専修大学と比べて5分56秒差で17位となった。個人順位では34位の高槻芳照（ビジネス1）、47位の並木寧音（開1）など1年生が活躍したのが特徴。

小指徹監督は「残念ながら17位に終わったが、1年生が6人出場し、うち5人が力を発揮し、来年に期待ができる走りをしてくれた。力ある新人を加え、来年に臨みたい」と語った。

東京農大１年生が力強い走りで上位に食い込んだ

陸上競技部女子 ＝強化指定部

第38回全日本大学女子駅伝対校選手権大会関東地区推薦校選考会（9月26日、千葉県印西市松山下公園陸上競技場）

第26回関東大学女子駅伝対校選手権大会が中止となり、各校6人の5000㍍のトラックレースで全日本選手権（杜の都駅伝）への出場校の選考が行われた。上位4校が推薦対象校となっていたが、東京農大チームは惜しくも5位。

東京農大は昨年の全日本選手権10位でシード権を逃していたため、全日本への出場はかなわなかった。

オホーツク硬式野球部 ＝強化指定部

北海道学生野球秋季リーグ（8月22日～9月24日）

7勝3敗で3位。

ホッケー部女子

2020関東学生ホッケー秋季1部リーグ（9月19日～11月29日）

8チームのトーナメント方式により行われ、東京農大は準決勝に進み、3位決定戦で慶應大に勝利し、全日本学生ホッケー選手権大会（インカレ）出場権を獲得した。

校友大関が誕生
正代関は初優勝とWの喜び

大相撲秋場所で初優勝した正代関（本名＝正代直也、平26開）は9月30日に大関に昇進した。東京農業大学校友が優勝したのは初めて。熊本県出身の力士としても初優勝となった。校友の大関は昭和38年、大卒力士として初めて大関となった元豊山の内田勝男さん（昭36化）以来で、2人目、57年ぶり。

正代関は熊本農業高校で国体個人で優勝、東京農大2年時に学生横綱になり、大相撲幕下十五枚目格付出の資格を獲得した。しかし大学卒業を優先し、この権利を用いなかった。その後、学業をおろそかにせず、同資格を再度取得することがなかった。このため平成26年春場所の前相撲で初土俵を踏むことになった。しかしそれからの昇進は速く、初土俵から17場所で関脇にまで到達した。その速さは史上2位タイ。

入幕してからは、東京農大OB力士として多くの校友から応援を受けていた。各場所で、ひときわ大きな声援を受けることで知られるようになった。

初賜杯を手に笑顔の正代関

東京農大出身の大相撲関取の過去３場所の成績

場　所	正代 熊本県／時津風 （正代直也・平26開）	豊山 新潟県／時津風 （小柳亮太・平28森）
令和２年９月場所 （秋場所、両国国技館）	東関脇 13勝２敗　優勝 殊勲賞　敢闘賞	東前頭４枚目 ２勝６敗７休
令和２年７月場所 （両国国技館）	東関脇 11勝４敗 敢闘賞	西前頭筆頭 ５勝10敗
令和２年３月場所 （大阪場所）	西関脇 ８勝７敗	東前頭３枚目 ８勝７敗

時栄（冨栄秀喜・平31森）
令和２年９月場所（秋場所・両国国技館）幕下　７枚目　２勝５敗
令和２年７月場所（両国国技館）　幕下　17枚目　５勝２敗
令和２年３月場所（大阪場所）　東幕下　24枚目　４勝３敗

農大OBの活躍

高野学長からのメッセージ（要旨）
ますますのご活躍を

正代直也さん、大相撲秋場所での初優勝、そして大関昇進、誠におめでとうございます。

東京農大出身力士の優勝は初めてです。優勝インタビューの中で、地震や水害被害に遭った古里、熊本への思いと同時に、東京農大相撲部と監督ら指導者への感謝を語ってくれたのを聞き、胸が熱くなりました。

あなたは2014年に国際食料情報学部国際農業開発学科を卒業されました。国際農業開発学科は、座学だけでなく実験実習も多く、相撲部の練習との両立は、大変だったであろうと思います。加えて、あなたは母校、熊本農業高校で教えることを目指し、教職課程も履修したのですね。あなたが角界に入り、番付を上げていくたびに、まじめに学びに取り組んでいたことが、話題になっていました。

これからは大関としての重責も担うこととなり、緊張の日々が続くことと思います。時間にゆとりができたら、一度、羽を伸ばしに、母校を訪ねてください。ますますのご活躍を期待しています。

周東選手が盗塁王へ王手

打撃も好調。10月８日の西武戦でも二塁打

「異次元のスピード」と評されるソフトバンク周東佑京内野手（平30産経）は10月27日現在、46盗塁をマークし、パ・リーグトップ。初の盗塁王タイトルに近づいている。両リーグ通じてもトップだ。

昨シーズンの課題となっていた打撃も向上させ「1番二塁」に定着、打率は2割7分3厘に（10月27日現在）。守備でも俊足を生かした好プレーを連発、ソフトバンクの優勝に貢献した。

周東選手は農大二高から農大北海道オホーツクを経て、育成ドラフト2位でソフトバンクから指名を受けた。プロ2年目の昨年に支配下登録され、チームトップの25盗塁。昨年のWBSCプレミア12では代走の切り札として「侍ジャパン」の世界一に貢献した。

編集後記

▼新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済活動の両立が課題となっている。しかし人々の動きが活発になると、また各地に感染が広がる。マスク、うがい、手指の消毒、身体的距離の確保など、基本的な感染防止を徹底したい▼本学では感染防止策を徹底した上で、後学期から一部で対面授業が始まった。キャンパスに学生が徐々に戻るも、活気ある元の状態はまだ遠い。来春の学位記授与式と入学式はいかに▼こうした中、大相撲秋場所で正代関が初優勝、大関昇進を果たした。日本中の校友が歓喜し、元気をもらった。海外各地の校友からも祝福の声が届いた。スポーツは人を元気にする力がある。（安達）

編集委員
委員長　豊原　秀和（副会長・名誉教授）
委　員　穂坂　賢（醸造科学科教授）
委　員　上岡　美保（常任理事・国際食農科学科教授）
委　員　緒方　和彦（法人本部総務・人事部長）
委　員　安達　哲司（事務局長）